

メンタリズム
秘密のツールと戦略



メンタリズム：秘密のツールと戦略

SECRET TOOLS & STRATEGIES

BY RICHARD MARK & MARC SALEM

(訳注：これはイギリスの2人のベテランメンタリストによる、メンタリズムに使われるいろいろなやり方の考察です。

自分たちが実際に永年使ってきたツールが中心であり、ベテランらしく電子メカや携帯電話は使いません。著者の2人は本書を、クラシッくなネイルライター、ペンデュラム、スイッチクリップ、シャイナ

ー、フォーシングバッグの「MASTER CLASS」と位置付けており、それに加えて具体的なエフェクトの説明の中でいろいろなその他のやり方も教えています。具体例があるので分かり易く、またいろいろなエフェクトも参考になると思います。お楽しみください)

はじめに

これまでの私たち2人のコラボはとても刺激的で、生産的なものでした。メンタリストのコミュニティーに我々の知識と経験が、これまでに少しでも役立ってきたことを期待しています。2人合わせて1世紀近くに及び実際の演技経験と独創的な発想は何冊かの本にまとめましたが、どれもとても好評でした。ただ、それらは限定版が多く、既に絶版となっています。その後もこれまでに新しいアイデアを伴った多くの作品を作っており、他のメンタリストとシェアしたいと思っていました。

この本は、他の人の研究に譲るべきものや既に十分に文献化されたものはずして、何を含めるかについて何回も協議した結果、出来上がったものです。その中には、とても賢いものですが、電子メカなどの技術系の道具は含めませんでした。それは使い過ぎると、「テクノロジーを使えば、我々のやっていることは何でも出来る」という誤った認識を観客に与えかねないからであり、また一方では「故障する」というリスクも抱えているからです。また、スマホなど携帯電話のトリックも、うまく演じないと「単なるテクノロジーの力によるトリック」で片付けられてしまいかねず、ここには含めていません。

では、この本では何を提供出来るのでしょうか？

それは我々のお気に入りの道具やその他の道具を使った演技の、いわば「MASTER CLASS (専門コース)」とも言うべきものです。それぞれのコースにおいて、我々の経験からくるアドバイスと、観客の興味を引き、持続させるための様々な筋書きや物語を提供します。また、過去に限定版として公表したのもアップデートし、洗い直して再掲したいと思います。もちろん、過去に未発表のものも含めてあります。それらはメンタリズムの演技には無限のアプローチの仕方の可能性があることを、あらためて教えてくれるでしょう。

我々の永年の経験から、最も優れたツールは目に見えないツールだと思います。つまり、メンタリストのツールボックスの中の最も重要なツールは、あなたの温厚な雰囲気や客に好まれる態度、ステージでのたたくまい、観客とのコミュニケーション能力などメンタリストのパーソナリティーだと思います。もちろん、すぐれたテクニックや巧妙な道具ややり方は、いくらあっても邪魔にはなりません。

皆さんがこの本を楽しんでくださり、我々のコラボからあなたに提供されるアイデアを活用して下さることを望んでいます。

MARC AND RICHARD

<目次>

<u>SWAMI : スワミ HOW I LOVE YOU</u> -----	3
Personal Memory; Swami Selection; Technique; Envelopes; Magnetic Attraction; Presentations; Tick List; Pocket Change; Shattered; Do You Do Voodoo; Lets Shop; Serial Number; Chair and Chance; Nail It; Veg-a- mental; On Glass; Fogel	
<u>SWINGERS : スウィンガーズ</u> -----	19
Pendulum Technique; Which Hand? Key Time; Signature Effort; Jaks or Better; Platform	
<u>PHANTOM HAND : ファントムハンド</u> -----	22
Ostin Clip; Selection; Thornton; Nelson-Bergson; Others; Executive Clip; Phantom Hand Clip; Display; Robert Schwartz; Index; Write It; Crimes; Clip Switch; Center; Destination	
<u>OSAY : オーセイ</u> -----	30
Glimpse; Holdouts; Construction; Attachment; The Peek Procedure; Design; Closeup; Tarot; Voodoo; Map Quest; It's About Time	
<u>HULL OF A TOOL : ハル・オブ・ア・ツール</u> -----	38
Classic Hull Plus; Closeup; Acidus Novus/ Hull Book Test	
<u>ON A CLEAR DAY : オン・ア・クリア・デイ</u> -----	41
Talent show; Qz; Color Clue: Money Madness; Dunninger; Fogel; Lottery; Color of Music	
<u>RADIO DAZE : ラジオ・デイズ</u> -----	48
Mental Projection; Book; Tear It Up; Sealed Choice; Train of Thought; Which Hand? Off By	
<u>MENTAL METAL MEDAL : メンタル・メタル・メダル</u> -----	52
Duplicates; Medal	
<u>WRITE ON : ライトオン</u> -----	55
Transmission; Synchronicity; USA Today	
<u>POTPOURRI OF TOOLS : 道具のポプリ (ごった煮)</u> -----	57
Backhanded; All That Jazz; Jazz Again; Key Word; Double Vision; You're a Card; Mann-O-Mann; Truth or...; Electric Experience	
<u>OUR OPINIIONS : 私たちの意見</u> -----	70
Preshow; Mental Music; Double Preshow; Creativity; Classic Methods	
<u>APPENDIX : 付録</u> -----	77

SWAMI, HOW I LOVE YOU

まずは CHRIS WOODWARD M.I.M.C.の個人的記憶を借りて話を始めましょう。

(訳注:「M.I.M.C.」はイギリス最古のマジック団体である「THE MAGIC CIRCLE」のメンバーのうち、特にリスペクトされたメンバーで構成する「THE INNER MAGIC CIRCLE」のメンバーの略称です)

MARC SALEM はロンドンのウエストエンドにある AMBASSADOR THEATRE で8か月間にわたり、「MIND GAMES」の舞台を成功裡に務めたことがありましたが、報道関係や地元のマジシャン達から好評を得ました。以下は、その時 CHRIS がはじめて MARC SALEM と会った時のコメントです。

(高級スーパー) MARKS AND SPENCER の元重役であり、THE MAGIC CIRCLE の副会長であった大英帝国勲章受章者である JOHN SALISSE は、引退後に「JOHN SALISSE LUNCHEON CLUB」を始めましたが、今も続いています。今は年に3回か4回、オンライン形式で行われますが、参加者は JOHN が選びます。私は初期の頃は彼を手伝って、食事場所やメニューの選定を行い、またマジック界からロンドンにいる誰かを呼ぶアドバイスもしていました。

その中の1人に MARC SALEM がいました。彼はロンドンの WESTEND の AMBASSADOR THEATRE でモダンメンタリズムの素晴らしいショーをやっていたのです。彼の演技は、私に義父の MAURICE FOGEL (訳注:イギリスの有名なメンタリスト。「世界一のマインドリーダー」と称していました)の演技を思い出させました。

2002年5月20日には、HALF MOON STREET の FLEMINGS HOTEL でランチ会が開かれ、DEAN ARNOLD はじめ10数名が参集しました。ランチの後で招かれたゲストがそれぞれの専門分野についてスピーチをするのですが、その日 MARC は当然メンタリズムについてスピーチしましたが、その時に「SWAMI」ギミックについて「マスタークラス」とも言うべきレクチャーまでしてくれました。私は MARC が示してくれた寛大さに感動したのですが、彼はセーム革のポーチに入ったあらゆる種類の「NAIL WRITER ネイルライター」を見せてくれました。しかも、それぞれのギミックを彼がいかに使って効果を上げているかまでレクチャーしてくれました。何という素晴らしい体験だったでしょう。幸いなことに、あなたはこれからこの章で同じような体験が出来ます。

その日、他のスピーカー達もいましたが、私には MARC がすべての点で「ダントツ」でした!

THE SWAMI SELECTION (どれを選ぶか?)

SLADE の黒板用ギミック (1872年) 以来、「SWAMI」ギミックは霊媒達にも使われ、発展してきました (訳注:SLADE も霊媒師的存在でしたが、両足や口でもチョークで黒板に、話すのと同じスピードで文章が書けたと言われていました。また文章を逆に書くことも出来ました)。客の心を読んだり、結果の予言等を密かに名刺やパッドに書くための数々のツールが現れました。それらは様々な形態をしており、いろいろの文献の中で分類されて来ました。中でも、TONY CORINDA の「13 STEPS TO MENTALISM」(訳注:FT マジックで販売中です)の「FIRST STEP: THE SWAMI GIMMICK」を読むか、再読することをお薦めします。そこでは基本的なことが十分に説明されています。MARC SALEM は「SWAMI」ギミックの使用については名人と言われており、本やビデオでギミックの使用法について一般的な説明はしていますが、ここで説明するほど詳しくはしていません

ん。

メンタリスト達はよく MARC にどのタイプのライターが良いか、それはなぜかと聞きます。その答えとしては、彼は「UNDER THE NAIL C-TYPE SWAMI WRITER」を好んで使っています。その主たる理由は、単に彼がそれを最初に使って練習したということです。彼が初めてメンタリズムを始めた頃のもっともすぐれたライターが CONRAD HADEN によって作られたこのタイプのネイルライターだったのです。彼の最近のコレクションには40種類以上の様々なタイプがあり、彼が持っているもっとも奇妙なものは歯医者で針金を使って作ったもので、それは爪の上で小さなドライバーで針金の位置や強さを調整するようになっていました。

（訳注：「UNDER THE NAIL C-TYPE」（以下 UNC と略）とは、ただ爪の先にはさむライターだと取れやすいので、書くための芯のホルダーの左右に小さな金属の羽を付けて、親指の爪の下に広げてはさむようにしたものです。曲がった金属の羽が横から見ると「C」の字に見えるので、「C-TYPE」と呼ばれます）

MARC が「C-TYPE」に慣れているというだけでなく、いろいろなものを試してみた結果、「C-TYPE」がもっとも細かくコントロールし易いことがわかったからです。MARC は「BAND WRITER」や「BOON」を使うメンタリストとも話してきましたが、自分の使い易い物を使えば良いので何も気になる点を指摘したりしませんでした。しかし、必ずしも客がサムチップや「BAND WRITER」や「BOON」を探すというわけではありませんが、それらに比べて「C-TYPE」はより目立たないので有利です。

（訳注：「BAND WRITER」は、細い金属帯で親指を下からはさむタイプのもので、芯は親指の腹側に位置します。「BOON」は ERIC MASON が考案したもので、粘着物などで小さな円盤状の芯のホルダーを親指の腹にくっつけるものです）

—以下省略—

TECHNIQUE (テクニック)

古い諺に、「(有名な) カーネギーホールで演奏出来るためにはどうしたら良いか?ただ練習、練習、そして練習だ」というのが有りますが、SWAMI の最大効果を得るためには同じことが言えます。練習してもあなたの筆跡そのままには書けないかもしれませんが、少なくとも客には読めなければいけません。演技で使う特性パッドや硬い紙を下にあてて書く練習をしてください。MARC は、最初は小さなカードに書くことから始めた方が良いと言っています。カードが小さいと書くのが少し難しくなりますが、それで練習しておく大きなものに楽に書けるようになります。

MARC は、SWAMI は正しく使うことを覚えたら、メンタリストにとって最高の武器になると言っています。しかしそれを観客にやり方がバレずに使うには、うまく行動しなければなりません。例えば装着ですが、「BAND」タイプを使っているのであれば、ポケットの中で装着することは簡単です。

しかし、MARC のように「UNC」SWAMI を使っている場合には、少し複雑になります。彼はそれが安定した使用感を与えるので爪にしっかりとめて使うのですが、ポケットの中では工夫が要ります。メンタリストの中には、はじめから装着して登場する人もいますが、MARC は必要な時に装着したいと考えています。そこで彼は、ベストのポケットにコンタクトレンズのケースに入れて「UNC」ライターを保管しています。それを演技中に装着することは、皆さんが思うほど難しいことではなく、練習すればすぐに指先の感覚だけで出来るようになります。その時のコツとしては、ライターを

親指にはめようとするのではなく、親指をライターに押し込む感じで装着することです。

MARC は右利きであり字も右手で書くので、ベストの右ポケットを使います。気楽な感じで右手をベストのポケットに入れたまま、なにか前振りのセリフを話します。この時にポケットの中で親指と人差し指でケースのふたを開け、中のライターを取り出します。感覚だけでそれを親指に装着します。彼は時々付けたりはがしたり出来る粘着物をわずかにライターに付けておき、ライターを固定するのを助けています。また、ライターがうまく固定されていないように感じた時には、親指を口に持って行って（両側にある「羽」の部分）「歯」で噛むようにして、ライターをより固定することもあるのです。

これまで多くのメンタリズム経験者が、MARC が SWAMI ライターを装着するところを見破れませんでした。MARC が説明するポケットの中での装着法は、人差し指と中指で「UNC」SWAMI ライターをはさみ、そこに親指先を入れるというものです。それは少し練習が必要ですが、次第に指先が感覚を覚えてくれるでしょう。ライターをうまく装着するには、それをどのように持ち、親指をどんな角度で入れるかを指の筋肉に覚え込ませます。

—以下省略—

ENVELOPES FOR SWAMI

予言あるいは客の行動に影響を与える実験などをする場合は、予言やメッセージが封筒の中に入っていると、よりディセプティブ（騙される）なものとなります。また、封筒の中のカードは書く時に表面の硬さを補強してくれます。封筒の一面に「窓」を切り抜いて、中のカードに直接書くやり方もあります。その場合には、「貼ってはがせる」粘着物でカードを封筒内部で固定しておきます。

また、カードにピッタリの小さい封筒の底をカットしておき、中のカードを少し引き出してそこに書くやり方もあります。このケースでは、メンタリストは角度に注意する必要があります。

普通の封筒の内側にカーボン紙を貼っておき、鉄筆のライターで書くという手もあります。カーボンは封筒の内部の一部だけに貼っておくので、客が封筒の端を破って開けて中の紙を取り出しても、カーボン紙には気が付きません。また、封筒に「TRAPDOOR（秘密のドア）」が付いているものも使われていますし、封筒のサイドから中のカードを引き出してネイルライティングが出来るようになっているものもあります。書いたカードはまた中に押し込んで、サイドはラバーセメントによって閉じられるようになっています。

—以下省略—

MAGNETIC ATTRACTION

テクノロジーの進歩は、かつては不可能であったことを可能にしてくれます。「MAGNETIC SENSITIVE PAPER」（磁性感応紙）もそれらのうちの1つであり、インプレッションデヴァイスに大いに活用されています。マグネット自体も現在では様々な形態のものがあり、SWAMI ライターの芯として差し込めるような小さなものまであります。例えば、封筒に磁性感応紙を入れておけば封筒越しにマグネチックライターで書くことが出来ます。その他、布やプラスチックのカバーを通して書くことが出来ます。MARC は時々、サムチップの先端に強力接着剤で小さなマグネットを付けたら

ライターで、大きな磁性感応カードに書いています。

PRESENTATIONS

これは、私 RICHARD と MARC の間で毎回交わされるジョークのようになっていることですが、私が販売用のメンタリズム商品のアイデアを華やかな言葉で語ると、MARC にいつも「それは私ならネイルライターがあれば出来る」と片付けられてしまうのです。彼はほとんどの場合正しく、CORINDA が彼の本の「FIRST STEP」として「THE SWAMI GIMMICK」を持って来たのもうなづけます。我々の本でもそうしています。それはメンタリストの TOOL BOX（道具箱）にあるもっとも弾力性に富んだツールです。それを使ったプレゼンテーションは無数にあり、我々もどれを取り上げようかと迷ってしまいました。そこで MARC のお気に入り和我々が面白いと思ったもの、この本の「TECHNIQUE」に書いたアドバイスを実践しているものをいくつか選んでみました。

多くのメンタリストはネイルライターを使ったエフェクトから始めますが、MARC の場合はそれだけで止めずに、同じやり方で続けていくつかのエフェクトをやってみせる弾力性を持っています。MARC に彼の得意技を十分に使うことを薦めたのは 1 人のステージマネージャーで、彼は劇場での延長公演を仕切ってくれたのです。MARC のやった SWAMI タイプのエフェクトは、観客から見るとそれぞれがまったく趣の異なるものでした。観客はまさかやり方が皆同じだとは思わなかったのです。ですから同じやり方をしても問題ありませんでした。ショーの統一的テーマの下に観客は、一連の独立したエフェクトを見ることになりました。それがうまくいったので、MARC は観客の立場に立ってショーを点検する余裕も持てて、好循環となったのです。

それらのエフェクトのプレゼンテーションでは、当然ですが、観客に「ネイルライティング」を悟られないようにしなければなりません。ROBERTO GIOBBI は、彼の本「SHARING SECRETS」（2021年）の中で、マジックの手順の中の作業をもっともうまく行うための戦略について述べていますが、「ACTIVE/PASSIVE」テクニックという議論を展開しています。彼は「ネイルライティング」は、表面の大きな動きに合わせて行うようなものではなく、「PASSIVE 受け身」なものだとしています。したがって、それには何か他のミスディレクションが必要になるのです。例えば GIOBBI が言うところの「CLOUDING QUESTION（霞をかける質問）」であり、「あなたの言った数は349でしたか？」などと聞くものです。実際には345であるのをわざと349と聞きます。CORINDA も言う通り、「これで観客の視線はすべて相手の客に行く」のです。さらに、客が少し長めの返事をしなければならぬような質問を投げかけるのは有効です。客に単なる数ではなく、電話番号や住所の一部などの、客にとって何か意味のある数を思わせて、それが何の数かなどを聞く手もあります。また、カードなり紙を両手に持って、書いてあることを読み上げるやり方もあるでしょう。書いてあるものを読む時にカードを両手で持つのは自然です。読みながら、必要なことを SWAMI ライターで書きこんでしまいます。

—以下省略—

TICK LIST (照合リスト)

(個々の品物や、曲名、国名などの前に「✓」をつける口のあるリスト)

まず1つ考えるべきことは、即席で出来る範囲をはるかに超えた結果が事前に書かれていたという印象をどうやったら作れるかであり、あらゆるやり方とプレゼンテーションをチェックすべきでしょう。

例えば、1つのルービックキューブを観客に示します。メンタリストは、色の組み合わせには「43京」だけの組み合わせがあるのだと説明します。

(訳注：原文では「43QUINTILLION」となっていますが、「QUINTILLION」はアメリカでは、10の18乗、イギリスでは10の30乗と内容が異なり、わが国では「京」(けい)と訳され10の16乗を指しています。まあ、とにかく大きい数ということです！)

キューブを少し回転させて見せたら、客席にキューブを投げ入れます。受け取った客に自由に回転してもらい、終わったらある面の中央の色に心を集中してから何色かを言ってもらいます。済んだらキューブをまた他の客に投げてもらい、その客に同じことをやってもらいます。それをあと2回繰り返します。

これで客達は4つの色を選んだことになります。メンタリストは、キューブのランダム性によって選ばれた色もまったくランダムなものだと言います。このルーティンの結末は、4人の客がランダムなプロセスにより選んだ色を、メンタリストが事前に予言しているという驚くべきものです。

—以下省略—

POCKET CHANGE (ポケットの小銭)

SWAMI ライターを使ったよく知られたエフェクトに、「CHANGE IN YOUR POCKET」があります。FOGEL やそのほかの人が「オープナー」として演じています。MARC はそれをちょっとしたアイデアでワンランク上のレベルのエフェクトに引き上げました。彼は演技の前に丸めた紙玉を客席にトスします。それには「プラス1セント」と書いてあるのです。MARC は別な客に手伝ってもらい、彼のポケットの小銭を全部取り出してもらいます。小銭を両手でもってよく振って混ぜてもらいます。MARC はその小銭がたてる音に心を集中しているかのようにしてから、客に手の中の小銭がいくらあるかを数えてもらい、声に出して言ってもらいます。仮に客が、「1ドル31セント」と言ったとしたら、MARC は彼の予言のパッドを客に渡して、書いてあることを読ませます。すると、そこには「1ドル30セント」と書いてあり、わずかに外れたことが分かります。

そこでMARC は、紙玉を持っている客に「続けて書いてあることを読んでくれますか？」と言います。その客は「プラス1セント」と読み上げます。客に「続けて書いてあることを・・・」と言うことで、観客には紙玉の内部には予言の全文が書かれているかのように錯覚させます。

(訳注：紙玉には「プラス1セント」としか書いてないのですが、「続けて・・・」ということで演技が始まる前に渡しておいた紙玉に予言の全文が書かれていると錯覚します。観客はその紙玉に当然「1ドル30セント」という金額も書かれていると思い込んで、首をひねるわけです)

ここでのミスディレクションは強力です。観客の注意は、紙玉を受け取った客と、小銭を振って数えた客とに集中します。こうして2つのアクションは演技をよりビジュアルで面白いものにして、演技を大きく見せることになります。

—以下省略—

SHATTERED (くだけた物)

カードか紙パッドと鉛筆を手に持って、1人の客に「テーブルの上の自分の前にガラスの花瓶がある」と想像してもらうように言います。さらに客の想像力を働かせて、花瓶には1本の明るい色の花がさしてあると思ってもらいます。メンタリストは精神を集中して、カードなりパッドに何かを書き始めます。書きながら、メンタリストは客が何も言わないうちに、客が心に思っている花の色とタイプについて自分の考えを口頭で言い始めます。すると客は興奮した様子で、メンタリストは100%正しいと答えます。メンタリストは何かを書き終えたら、鉛筆を客に渡してしまいます。

次に客に、誰かが花瓶をテーブルから落としてしまい、花瓶が粉々に割れてしまったところを想像してもらいます。メンタリストは客に、新しい花瓶を買うにはいくら必要かと聞きます。そしてカードを客に渡して書いてあることを読んでもらうか、メンタリストが読んで客に内容を確認してもらいます。内容は；

「あなたは、花瓶に明るい色の花をさしたところを想像しました。それは赤いバラでした。

あなたの想像力はとても優れています。なぜなら花瓶はとてもきれいなクリスタルだからです。

そして、花瓶の取り換え費用は5ドル位でしょう」

ですが、後から書きいれる部分を残して事前に文章を書いておきます。書き入れる部分が、カードの右半分に来るように(ライターで書きやすいように)文章を作ります。

—以下省略—

DO YOU DO VODOO

これはやるのが楽しい、不可解なルーティンです。客の心理状態とSWAMIライターによって成立するもので、わずかな道具で大きな反応が得られます。

「私はいつも信仰の力や神秘的儀式に魅力を感じています。ハイチで生まれたVODOU(ヴoodoo)も新興宗教の1つですが、いわゆる英語で言う「VOODOO」人形を使ったよく知られた儀式のルーツです。アメリカではニューオーリンズに行くと、多くの人形が売られているのを見ることが出来ます。信仰者達は、人形の体の一部にピンを指すと、誰かの体に刺激を与えることができると信じています。それは痛みを伴ったり、痛みを取り去ったりするのです。

どうです、この実験の手伝いをしてみませんか？私は今人形は持っていませんが、代わりに人形の絵

を描くことにします。では、深呼吸をして目を閉じて、どこかあなたの体の一部分にあなたの意識を集中してください。想像力と感受性を働かせてください。ゆっくりと時間をとって、あなたのその部分になにか違和感を感じたら教えてください。感受性を開放してください・・・では、あなたの体のどの部分に感じたかを教えてください」

—以下省略—

LET'S SHOP（買い物しよう）

メンタリストがチェック欄にチェックをすれば良いだけの品物のリストを書いたカードや紙は良く使われて来ました。誰が考案したのかは分かりませんが、とても弾力性のあるやり方です。リストの品物は、野菜から有名な作家、あるいはシェークスピアの作品など、何にでも使えます。

「皆さんの中の何人が、ここ1、2年のうちにインターネットでのショッピングをしましたか？私には、皆さんの誰かがマッチした財布と靴をネットで探したことがあるように感じられます（訳注：単なる前振りのセリフです。内容は何でもかまいません）。そこの方、インターネットで想像上のショッピングをするのを手伝っていただけませんか？・・・有難うございます。

それではまず、心の中でインターネットの商品を見て、欲しい物の色を見てくれますか？何色かはまだ言わないでください。でも、色は決まりましたか？さて、私はあなたの思考を読み取ることが出来るでしょうか？・・・出来たと思います。では、あなたの思った色を皆さんにも教えてあげてください。また、特に心に思っているブランドはありますか？・・・では、こちらに来ていただき、私がうまく出来たかどうか確認してください」

—以下省略—